

小規模企業景気動向調査

[平成17年7月期調査]

製造業を中心に回復の動きが見られる小規模景況

平成17年8月8日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象: 全国約300商工会の経営指導員

調査時点: 平成17年7月末

調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体>

7月の小規模企業景気動向調査によると、産業全体のD.I.(景気動向指数・前年同月比)は、売上額がマイナス17.4(前月比プラス5.8ポイント)、採算がマイナス23.2(同プラス3.8ポイント)、資金繰りがマイナス23.3(同プラス1.2ポイント)、業況がマイナス24.5(同プラス5.9ポイント)となった。製造業は、大企業の業績回復を背景とした受注増が窺え、全項目にて回復した。建設業は、公共事業の発注量に地域格差が見られるものの、資金繰り以外の項目にて回復傾向が見られた。小売業は、夏季商戦にて、家電の売上が増加傾向にあるとの回答が見られ、資金繰り以外の項目にて引き続き回復傾向を見せている。サービス業では、好天に伴う観光客の増加を背景とした旅館業が牽引し、全項目にて回復傾向を見せている。今月期は、全業種にて回復傾向が見受けられ、産業全体でも明るい兆しが期待される調査結果となった。

<製造業>

製造業については、売上額がプラス1.2(前月比プラス7.7ポイント)、採算がマイナス6.7(同プラス10.4ポイント)、資金繰りがマイナス8.6(同プラス4.6ポイント)、業況がマイナス6.5(同プラス8.5ポイント)となった。大企業を中心とした業績回復が小規模企業まで降りてきたことを窺わせる今期製造業の調査結果。特に、売上高は昨年11月以来のプラスDIとなった。

<建設業>

建設業については、完成工事額がマイナス34.3(前月比プラス2.8ポイント)、採算がマイナス46.1(同プラス0.9ポイント)、資金繰りがマイナス43.3(同マイナス0.4ポイント)、業況がマイナス43.3(同プラス2.2ポイント)となった。公共工事への依存度が高い建設業において、今月期の回答は地域格差が目立った結果となった。今月期は、売上額、採算、業況の三項目にて改善した。

<小売業>

小売業については、売上額がマイナス16.1(前月比プラス7.5ポイント)、採算がマイナス19.9(同プラス3.1ポイント)、資金繰りがマイナス22.9(同マイナス0.7ポイント)、業況がマイナス24.3(同プラス6.8ポイント)となった。依然として、大型店の出店に苦戦しているとの回答が見られたものの、好天や夏季商戦の影響で、家電や衣料品の需要があるとの回答が目立ち、資金繰り以外の項目は三期連続で改善した。

<サービス業>

サービス業については、売上額がマイナス20.4(前月比プラス5.5ポイント)、採算がマイナス20.3(同プラス0.8ポイント)、資金繰りがマイナス18.4(同プラス1.4ポイント)、業況がマイナス24.0(同プラス6.3ポイント)となった。飲食店及び理美容業では、新規出店に伴う競争の激化が生じているという回答がみられたものの、好天による観光客増加を背景とした旅館業の好調が窺えるとの回答が目立ち、三期ぶりに全項目にて改善した。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
売上額	▲23.2	▲17.4	5.8	▲6.5	1.2	7.7	▲37.1	▲34.3	2.8
採算	▲27.0	▲23.2	3.8	▲17.1	▲6.7	10.4	▲47.0	▲46.1	0.9
資金繰り	▲24.5	▲23.3	1.2	▲13.2	▲8.6	4.6	▲42.9	▲43.3	▲0.4
業況	▲30.4	▲24.5	5.9	▲15.0	▲6.5	8.5	▲45.5	▲43.3	2.2

業種	小売業			サービス業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
売上額	▲23.6	▲16.1	7.5	▲25.9	▲20.4	5.5
採算	▲23.0	▲19.9	3.1	▲21.1	▲20.3	0.8
資金繰り	▲22.2	▲22.9	▲0.7	▲19.8	▲18.4	1.4
業況	▲31.1	▲24.3	6.8	▲30.3	▲24.0	6.3

注) D.I.(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

問い合わせ先: 企業支援部 市場開拓支援課 平田 TEL: 03-3503-1256(直通)

E-mail: shijo@shokokai.or.jp